

## 平成30年度 第3回下野市生涯学習推進協議会議 議事録

- ・ 審議会等名 平成30年度 下野市生涯学習推進協議会議
- ・ 日 時 平成31年3月25日(月) 午後1時30分～3時00分まで
- ・ 会 場 下野市役所3階 教育委員会室
- ・ 出 席 者 小島会長、井上副会長、菅井委員、石田委員、下山委員、福田委員、鈴木委員  
武子委員  
【欠席委員】高橋委員、増渕委員  
(事務局)池澤教育長、手塚生涯学習文化課長、大門主幹、漆原主査、松岡主事
- ・ 公開・非公開の別 (  公開  一部公開  非公開 )
- ・ 傍 聴 人 なし
- ・ 報道機関 なし
- ・ 議事録(概要)作成年月日 平成31年3月28日

### 【協議事項等】

#### 1 開会〈手塚課長〉

#### 2 会長あいさつ〈小島会長〉

時節柄、お忙しい時期にお集まり頂きありがとうございます。本年度最後の会議になります。よろしく申し上げます。

#### 3 教育長あいさつ(池澤教育長)

事前にお配りしている実施計画についてご意見を賜りたい。

#### 4 議 事

平成31年度生涯学習実施計画について

(事務局) 事前に各委員にお送りした平成31年度生涯学習実施計画をお送りした。同計画について本会で提案頂いた内容が反映している部分などについて説明した。また事前に同計画に目を通して頂いた中で生じた疑問について質問を受け付けた。それについて回答を行った。

(小島会長) 計画や事前質問の回答について何か意見はないか。

(武子委員) 新規事業計画は各課が自発的に提案したものなのか。

(事務局) そうだ

(武子委員) 我々が本協議会で行ったワークショップの内容を加味した上で、提案してきたものなのか。

(事務局) 提案頂いたものを各課に周知したうえで提案されたものである。

(武子委員) とちぎテレビで放映されている「サクラノチカイ」というのは一体何なのか。

(事務局) 下野古麻呂を題材にしたアニメである。

- (武子委員) あのアニメの3人の女の子が下野市を応援するという事なのか。CMなどでよく見るがよくわからない。昨年あたりまでは下野市をよく応援していたようだが、現在は県北の方を取り上げているようだ。
- (事務局) 資料を確認し、後ほど回答する。
- (武子委員) 年輪のつどいについてだが、他の地域から来ている人を受け入れる体制を作ってはどうか。都市圏などで就労を終えた人たちに対して下野市ではこういったことをやっているかと誘致することもできるのではないかと。
- (菅井委員) 別の事業があったと思う。
- (事務局) 他課で定住促進事業を行っている。
- (菅井委員) そういったものと結びつけられれば良いと思うが、これは既に住んでいる人向けの事業となっている。自分も社会教育委員として出席させてもらったが非常に良い催しだった。
- (武子委員) 定住促進事業は下野市として既にやっているということか。
- (事務局) 商工観光課や都市計画課、総合政策課などでそういったことは行っている。
- (井上副会長) 市外からの新規定住者に対して補助金やリフォーム支援など補助事業が多くある。
- (事務局) 子ども向けの施策や空き家対策なども行っている。
- (武子委員) 大松山運動公園から南に行くとまだ空き地が多くある。そういったところを活かせればよいと思う。
- (事務局) 大元は生涯学習に繋がってくるかもしれないが、各施策の基礎は各課にお願いしている。
- (菅井委員) 各公民館で講座を企画しているが同じような講座は一緒にするなどの調整もするのかわ。
- (事務局) 各館で打合せをして、各地区の特色を活かした講座を企画している。もちろん同じような講座もあるが、調整は行っている。
- (菅井委員) それぞれの地区でやった方が参加しやすいとか、各地区の文化を習うとかならそれぞれでやった方がよいと思うが、音楽を習うとかであれば集約したほうがよいと思った。
- (事務局) 「サクラノチカイ」について資料が届いたので説明させて頂く。下野薬師寺について知ってもらうということで、キャラクターを使ってPRしている。
- (鈴木委員) 茨城県大洗町内の店先にアニメキャラクターのパネルが置いてあり、若い観光客はそういうものを写真に撮って、ついでにお店に入っていく。若い人を対象にアニメーションを使った街おこしをしている。これについても同様の発想なのか。
- (事務局) そうである。「サクラノチカイ」に登場しているキャラクターのひとりが下野市観光大使になっている。そこから下野古麻呂に絡めていってアニメーションから若い人たちを引き込むという施策になっている。
- (武子委員) 市とタイアップをしているのか。
- (事務局) 市の「東の飛鳥」事業で利用させてもらっている。

- (武子委員) オリジナルは市と関係ないところで動いていて、それを市が活用しているというとか。
- (事務局) そうである。
- (石田委員) グリムのフェスティバルでコスプレイベントを行ったが、当日は1日、台風の影響で中止になった。自分はグリムの館にも関わっており、なんとかコスプレを活用したいと思っていたが、最近はブームも縮小しているようだ。
- (鈴木委員) 昨年、天平の花まつりのとき、すごく人が集まっていた
- (事務局) キャラクターの声優がステージイベントをしていた。
- (鈴木委員) これは下野市オリジナルのものなのか。「エール」に画像を使うのは難しいのか。
- (事務局) とちぎテレビのキャラクターになっている。
- (石田委員) 計画内に中学生の海外派遣事業は記載があるが、広島への式典派遣が記載されていないようだが。
- (事務局) 何の事業を計画に記載するかは各課に一任している。
- (石田委員) 下野市は英語圏の都市と姉妹都市締結する予定などはあるのか。
- (事務局) そういった話は把握していない。
- (福田委員) 文化財課で出版する書籍「東の飛鳥」は購入することができるのか。
- (事務局) 文化財課や一般書店で販売している。
- (鈴木委員) 市民との協働によるまちづくりが重要となっている。自治会の活動と生涯学習関係が連携できればよいと考える。自治会設置の目的から逸れていて難しいのはわかっているが、まちづくりや人権問題というのは身近な話題でもあるし、自治会の方々が協力的だと事業も活発になり継続性もある。
- 地域学校協働活動推進員の方が自治会長と綿密に連絡できるようになれば、自治会内にいるいろんなノウハウを持った方と繋がることのできるのではないかと。
- (武子委員) そういった話は以前にもあった。ボランティアバンクを行うにあたってバンク登録に適した人材を自治会から情報を頂いて集めようと。自治会長会議で提案してみようという話があった。しかし、その後何もない。自分の所属する当時の自治会長に話を聞いてみてもそういったことはなかったと。自治会は非常に重要なので、もう1回話をしてみたほうがよい。
- (鈴木委員) 先日、高橋委員が学校の植木の剪定に困っている話をされていた。街にはそういったことをやりたい人がいる。ところが募集したら3人しか集まらなかったと。学校の先生のなかにも地域と連携する委員の方がいる。そういう方はどんどん地域と連携するので、自治会との連携がほとんどなく、どんな方がいるのかわからない。自治会の方から来るのを待っている。
- (武子委員) 学校運営協議会でもそんな話が出ている。
- (鈴木委員) 地域学校協働活動推進員が地元の方なら自治会長とか知っていれば繋がることのできるのではないかと。
- (武子委員) 鈴木委員がおっしゃっていることは既に試しているはずだが、特に動きが無い。
- (菅井委員) 私は自治会長をやっており、現在の国分寺地区の自治会長連絡協議会の副会長もしているが、残念ながらみなさんが期待されているほどの力は無い。長くやっ

ている方は共感してくれる方もいるが、大半が当番制で、1年で交代してしまう。年度初めに集められて依頼・連絡事項を受けて、それだけで終わってしまう。自治会は高齢者対策など色々なところで地域を良くしてもらおうと期待されているが、動ける状態ではない。せっかくある組織だし、一番地域住民に近い組織なので何らかの協力はしたいし、出来ればいいと思っているが、意見交換の機会もないし、1年に1回顔を合わせるだけの方もいるので、現在は自治会の力にはあまり期待できない。

(武子委員) 自治会の集まりに若い人の参加も少ない。休みのときも家族サービスが第一になり、自治会が後回しになってしまう。現状苦しいのは理解しているが、何とか連携していくことは大事だと思う。

(菅井委員) それは大事だと思う。ただ自治会の動きがそのような状態なので、自治会を管轄している市民協働推進課に話をしたとしても、それが自治会の方にうまく伝わらないと思う。

(鈴木委員) モデルケースがあるとよい。あれば、こういう風にやればいいのかとわかるし、たまたま当番で自治会長になった人が、自分の当番の時にこんな面倒なことをやらないといけないのか。となってしまう。

(菅井委員) ときどき新聞に掲載されている自治会の取り組みを紹介する記事を見ても、すごいな。で終わってしまう。

(武子委員) これから高齢化社会が進んで、若い人がいなくなったときには自治会がしっかりしていないと大変だ。人間ひとりでは生きられないし、地域で一番最初に繋がれるのは自治会だ。そういったことを生涯学習推進協議会でも考える必要があるのではないか。

(鈴木委員) まちづくりリクエスト講座の新規講座である「防災について考えよう」とあるが、現在はプライバシーの問題があって隣近所の世帯の情報がなかなか把握できない。災害時に隣同士助け合おうといっても難しい。その難しさを解消する為に何とか一歩踏み出さないと、下野市が謳っている「しあわせなまち」って何なのかとなってしまう。当市として非常に特色のある事業である「年輪のつどい」を上手く活用したり、地域学校協働活動推進員が地元の人と密接に繋がるとか、グリムの館や自治医科大学などの他の地域にはない地域資源を生涯学習事業に結び付けられるといいと思う。

(武子委員) 第二次計画をベースに踏襲するだけの第三次計画ではなく、多少形を変えていく必要がある。

(鈴木委員) もっと具体的な例として、東の飛鳥プロジェクトのボランティアの方は自治会とほとんど関係ない方がやっている。しかし、そこを一番見ているのは地元の方だ。地元の方もある程度は関心があると思うが、お仕事などで忙しくなかなか参加して頂けない。ある程度余裕がある方にあまり難しいことはやっていないから手伝ってほしいと軽い感じで声掛けをする。国分寺の天平の丘公園なども同様に行う。もし何人かでも協力してもらえれば不審な人や車があったときに地元の方であれば気づきやすい。

- (下山委員) 地元の地域住民を巻き込むことが一番の繋がりだと思う。先ほどの学校支援にしても、学校支援ボランティアバンクがあるが、知っている人は知っているが、知らない人は知らないということになっている。だから利用する手立てが見つからないのだと思う。
- (鈴木委員) 学校でも本当に必要としていること具体例がなかなか出てこない。今、本当に困っているのは草むしりや早朝に行う防虫剤の散布なんだというような学校が必要としているニーズが何なのか。下山委員が行っている読み聞かせボランティアは学校からのニーズがあるから実現していることと思う。学校の本当のニーズを出して頂きたい。プログラミングをやりますといっても学校でやっていますと言われれば、公民館とどう繋がるの。となってしまう。
- (武子委員) そのあたりは学校運営協議会や教育委員会が中心になってやっているのではないか。
- (鈴木委員) 私もその辺りは詳しくわかりませんが、あとはきちんとした情報交換会を開催出来ればお互いのためになると思う。
- (菅井委員) 学校運営協議会のメンバーにはその学校の PTA が保護者代表として入っていたり、自治会長も入っている。そこできちんと伝わって対応していくようになればいいが、現状、そこまではしていない。本当に学校は草むしりなどいくらでも人手は必要だろう。
- 国分寺小学校では授業の一環で子どもたちが草むしりをやるが、それを手伝ってくれる人がいればということで自分に話があり、老人会に声をかけたら行ってくれた。暑い中、活動をして疲れたと言っていたが、後日感謝の会に招待されて、子どもたちにお礼を言われて嬉しかったと話していた。
- 地域の人たちは沢山いるのでタイミングがあえばやってくれると思う。ただ、うまく組織立ててはいないので、必要な時に必要な人が集まるかというのが課題だと思う。
- (武子委員) 可能なら組織立てたい。
- (菅井委員) 学校運営協議会は年3回くらいだが学校評価はどうかなど、審議することがだいたい決まっているので、なかなか自由にコミュニケーションをとる時間がない。
- (鈴木委員) 地域連携教員と地域学校協働活動推進委員がよく連携するようになればよい。
- (事務局) 地域学校協働活動推進委員は今年度から配置されている。下野市ではふれあい学習といって地域の方を学校に招いたり、学校活動に協力してもらったりしている。各校の地域連携教員と連絡を取り合いながら、その連絡係をしてもらっているのが地域学校協働活動推進委員なので地域連携教員とは常に連絡を取り合っている。学校運営協議会にも地域学校協働活動推進委員は出席しているのでそちらの情報もきちんと得ている。
- (鈴木委員) 県内に4つしかない貴重な良いシステムだと思う。上手く活用して頂きたい。
- (事務局) 平成29年に社会教育法が変わって、地域に開かれた学校づくりということで地域連携協働活動推進委員を取り入れなさいということになった。下野市では今年度から旧3町地区にそれぞれ1名ずつ推進委員を設け、学校教育課にコーディネ

ネーターとして取りまとめる者がいる。それらで毎月、会議を行い、学校運営協議会にも参加し、ふれあい学習推進協議会の中で取りまとめて進めている。

(鈴木委員) 非常に良かった授業の成果などが共有されると良い。マイナス面ばかり共有されると活気がなくなってしまう。各公民館、各学校でお互いに出せるようになれば良い。

(事務局) 学校も地域学校協働活動推進委員の情報をもとにボランティアの活用や取り組みを始めているところだ。

(下山委員) 地域学校協働活動推進委員だが国分寺公民館では上野社会指導員が担当しているのか。

(事務局) そうである。

(下山委員) 国分寺地区は全校を上野社会教育指導員が取りまとめなどしているのか。

(事務局) そうである。

(下山委員) 各中学校に1人なのか。

(事務局) そうである。

(鈴木委員) 地域学校協働活動推進委員はみなさん地元にお住いの方なのか。そうでなければ地元の方々が出来ることなどの把握が難しいのではないのか。

(事務局) 担当地区に教員として赴任した経験のある方がほとんどである。

(鈴木委員) 学校の教員は各地を転々としていたかと思うので、地元の方との人間関係があったほうがいいのではないのか。

(菅井委員) 地域学校協働活動推進委員になる前に各地区の公民館の社会教育指導員もやられている方なので、ある程度、担当地区の知識は持っていると思う。

(石田委員) 学校の内情もよく知っている方が現在やっていると思う。

(井上副会長) 自治会長としての菅井委員に伺いたい。自治会長会の中でこういう話題が出たことはあるか。

(菅井委員) ありません。

(井上副会長) やはり情報が入らないと地域での協力は難しい。

(菅井委員) 集まる機会が少なく、年度最初に集められて、各課からの今年の依頼事項を聞く。また国分寺地区は39の自治会があるが、今年度半ばごろ、意見交換会をやるかと通知を出したが12の自治会からしか参加が無かった。

(井上副会長) だんだん住民関係が希薄になってきていて、隣に住んでいる人だってなかなかわからない時代になった。

(武子委員) 自分は農家で隣近所との付き合いは深い方だが、それでもなかなか難しい。時代のせいじゃないかと思うこともある。

(菅井委員) 自治会の加入率も年々減少傾向で、現在6割ほどである。それでも唯一性のある組織だからなんとか維持している。無くしてしまうと復活は難しい。

(武子委員) それについてはここだけで話しても難しい。市全体として大きな事業としてやっていないとならないことのように思う。

(菅井委員) 自治会のメリットは何かと言われると説明できない。地域と仲良くしていろいろ助け合うとか。自治会費用は仕方ないにしても、あとは寄附、会費ですよ。

7～8千円くらいのを黙って納めている。社協なんかはそれを元手に運営している。ただ自治会に入っていないなくても、その恩恵が受けられるのであまり加入者が増えない。昔は納税組合というのがあって、還付があったり、積み立てて旅行に行くとかあったが、今、思い返すとあれはよかったと思う。

(武子委員) 今は個人情報ネックになっている。やっぱり自治会費ですね。自分の自治会では年間1万円近く払っているが、本当に何もない。

(鈴木委員) 赤十字の寄付も500円だが、あれは自分の家が火事になったりするとお見舞いが届く。10年払って5千円だが1度火事になると何万円と頂ける。菅井委員がおっしゃったようにメリットといえは助け合いだが、いざ火事があった時にこうなりますと話しても、うちは火事を起こさないと言われてしまう。ただ実際には市内でも火事は起きている。そういったことを説明することも大切かと思う。

(菅井委員) 参考にします。

(小島会長) 他になにかありますか。

(鈴木委員) 生涯学習情報誌エールの情報は市ホームページには掲載されていないのか。探したが見つからなかった。

(事務局) ホームページ掲載済である。生涯学習のほうから進んで頂ければある。

(鈴木委員) わかりました。教育というところから行ったら転入とか転居とかが出て来てしまった。やはり生涯学習情報誌エールの内容がインターネットに掲載されていると助かる。

(小島会長) 他になければ、これで議題についての質疑を終了する。来年度も、推進計画や実施計画の作成にあたり、意見を頂くこととなるので、よろしく願います。では、その他ということで事務局より願います。

(事務局) 先ほど会長からもあったように、皆様方には来年度も引き続き、生涯学習推進協議会委員としてご協力をお願いする。現在、各課に今年度の計画に対する事業実績の報告をさせている。来年度第1回目の会議は6月中を予定しているので、詳細は後ほど連絡する。以上で閉会とする。